自然にやさしく
活力ある産業を生かす
まちづくり

海の恵み

漁業

オホーツク海とサロマ湖の美しい環境を守りながら良質な水産資源をつくり育てる取り組み

　オホーツク海とサロマ湖という2つの豊かな水産資源に恵まれた湧別町では、長年漁業が栄えてきました。

　湧別・登栄床・芭露の3つの漁港を中心に、オホーツク海ではホタテ・サケ・マス・カレイ・ホッケ・毛ガニなど、サロマ湖ではホタテ・カキのほかエビ・ウニなどが水揚げされています。

　特に、湧別産のホタテは、グリコーゲンを豊富に含む最高品質として知られ、鮮貝は東京・大阪などの大都市へ出荷され、玉冷・乾貝柱・ソフト貝柱などの加工品は東アジア・北米・EU諸国へ高級食材として輸出されています。

　また、湧別町では、ホタテとサケを対象魚種とした衛生管理型（ハサップ対応）漁港としての整備がされた湧別漁港のほか、サロマ湖漁港は、オホーツク海沖合操業船の緊急避難や湖内第1種漁港の利用漁船の前進基地として整備され、世界初のアイスブーム工法によって流氷流入を阻止することにより養殖施設等の被害がなくなりました。

湧別漁港

登栄床漁港

芭露漁港

サロマ湖アイスブーム

感謝の気持ちで無料配布 ホタテ20枚

　湧別漁業協同組合では、毎年春、町内全戸にホタテを20枚すつ無料配布しています。

　新鮮なホタテを町民に味わってもらおうとはじめたもので、毎年多くの人が楽しみにしており、とても喜ばれています。

つくり育てる漁業

　湧別町では、サロマ湖でのホタテ・カキの養殖やホタテ稚貝の生産、サケ・マスの孵化事業などによって栽培漁業を推進しています。

　特に、外海ホタテは、オホーツク海沿岸に設定した漁場を4海区に分け、1年毎に海区をずらしながら稚貝を放流して3年後に採取する「輪採制」を導入することにより、計画的な水揚げを行っています。

　また、サロマ湖養殖漁業協同組合が中心となり、ホタテ・カキの養殖許容量の設定、流域地区での植樹、湖内・流入河川の環境モニタリング、湖内沿岸清掃を実施し、自然の恵みを次の世代へ継承するための努力もしています。

ゆうべつ

大地の恵み

農業

恵みの大地と共生しながら生産力をつける独特な手法

　豊かな自然に囲まれた湧別町は、北見峠に水源を発する湧別川が中央を貫流し、その流域には平坦地が広がり、東西に平行した稜線で囲まれています。

　オホーツク海に面している湧別町の気候は、四季を通して気温の差が大きく、農耕期間は温暖多照で、降水量は年間800mm程度で少雨地帯にあたります。

　農業は、わが町の基幹産業のひとつとして重要な役割を担っており、多様な営農に取り組むと同時に、次の担い手・後継者の育成を図りながら、新規就農者の受け入れに取り組んでいます。

リールマシン（自走式スプリンクラー）

■畑 作

　湧別川流域の沖積土地帯を中心とした畑作農業は、一般畑作と玉葱主体の畑作経営が行われており、少雨地帯という特殊な地域性を補完するため、作物が水分を必要とする時期に人工的に水分を供給する畑地かんがい事業などの基盤整備が行われ、収穫された作物は、出荷の調整や加工などによる付加価値を高めるための取り組みが進められています。

　また、近年はブロッコリーや長芋、流氷とうもろこしなどの高収益野菜の栽培により、農家の経営安定化が図られています。

■畜産業

　明治の入植期以降は畑作を中心とした北見ハッカの主産地として繁栄していた湧別町も、工業ハッカの台頭や水稲の不作の影響を受け、昭和39年からは、酪農を基幹とした農業地帯としての一大転換が行われました。